

マクロ経済変動、所得リスクと消費格差

山田 知明*

立正大学経済学部

2008年4月19日

概要

ライフサイクル・恒常所得仮説は、家計の消費・貯蓄問題を考える上で重要な役割を果たしてきた。本論文では、次の2つの問題を考えていく。(1) マクロ経済環境の変化は、所得及び消費格差にどのような影響を与えたのか。(2) 日本における所得リスクが消費格差をどの程度、説明可能なのか。動学的一般均衡モデルに基づいて所得リスクと消費格差の関係性を分析したところ、ライフサイクル側面から見た所得格差に関しては実証データと整合的に同時に説明出来る事が明らかになった。時系列の側面で見ると、1980年代はモデルとデータの所得格差の推移を説明出来る。しかし1990年代に入ると、所得格差に関しては実際の不平等度よりもモデルの方が低めになる。消費格差については、モデルの説明力はあまり高くないという結果を得た。また、1990年代のTFP成長率低下は賃金格差及び消費格差を低めにする役割を果たしていた。

Keyword: 所得リスク、消費格差、動学的一般均衡

JEL Classification: E21, D11, D31, D58, D91

* 141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16. E-mail: tyamada@ris.ac.jp. Phone: +81-3-5487-3239.